

米国メイヨークリニックにおける研修報告：看護継続教育について

Continuing education in nursing: Report of training at Mayo Clinic in the United States

○柴山薫¹

Kaoru Shibayama

1 佐賀大学 医学部看護学科

Institute of Nursing, Faculty of Medicine, Saga University

【はじめに】

私は、木村看護教育振興財団の海外看護研修助成事業にて、米国のメイヨークリニックで研修を受ける機会を得た。本研修は、質の高い看護を実践するための看護継続教育について学ぶことを目的とした。

【方法】

1. 研修期間：2019年9月14日～10月6日
2. 研修場所：アメリカ ミネソタ州 メイヨークリニック
3. 研修目的：質の高い看護を実践するための看護継続教育について学ぶ。
 - 1) 新人看護師教育のシステムやプログラムについて知る。
 - 2) 日々の臨床における教育やスキルアップ方法について知る。
 - 3) キャリア開発支援について知る。
4. 研修形態：各研修者の研修目的に沿った個別研修プログラム。集団講義と個人の目的に応じた臨床現場における1対1でのシャドーイングとディスカッション。
5. 研修内容：各専門家による講義、消化器やがんに関連した病棟・外来におけるシャドーイング

【結果】

1. 新人看護師教育
新人看護師に対する部署でのオリエンテーションは、Tiered Skills Acquisition Model という簡単な技術（例：バイタルサイン）から複雑な技術（例：看護ケアプラン）まで7段階のステップで構成されたプログラムに沿って実施されており、全過程を修了するまでに約10週間を要する。このプログラムの特徴は、段階毎に達成する目標とシフト数が設定されていること、新人看護師とプリセプターはできる限り同じシフトで組み一緒に行動し、入職後すぐから様々な重症度の患者を受け持つことができることである。また、リソースタイムという直接ケアから離れて、シナリオやカードといった統一されたツールを用いて振り返りを行う時間が設けられていた。新人看護師はプリセプターとともに、患者への直接ケアと振り返りを計画的に繰り返し実施することで、段階的に確実に看護ケアを習得するだけでなく、時間管理や優先順位付けを学び、看護師として働くうえで必要な実践的な技術を身につけていくことができると考えた。

2. 日々の臨床における教育やスキルアップの方法

病院内においてNursing Education Specialist (NES) が大きな役割を担っていた。NESは病棟や外来に配属され、患者を担当せず看護師の教育に従事し、部署毎のコンピテンシーの教

示や個々への学習方法の提案、研究のアドバイスやプリセプターのサポート、キャリアの相談に常時応じていた。また、看護師は日常利用するパソコンから簡単に教育ツールにアクセスすることができるうえ、メイヨークリニックが独自で作成し、毎年ニーズに応じて更新される160種類の教育プログラムを受講することが可能であった。臨床の中で教育環境が整備されていることや教育の専門家がいることが、看護師のスキルアップにつながっていると感じた。

3. キャリア開発支援

メイヨークリニックでは1病棟に看護師長、看護師の他、Nurse Practitioner、NES、Clinical Nurse Specialistが所属する。また、研修を通して教育や感染、人事、倫理コンサルト等様々な領域に看護師が配置され、活躍していることを知った。病棟に勤務する看護師は看護部に所属するが、勤務を希望する部署は個人が選択し、その部署に応募する仕組みになっていた。話を聞いた看護師は、2年目であったが希望の部署に応募し、配属が決定していたり、同じ部署で長期間キャリアを積んでいたり、倫理学の教授として働きながら臨床での勤務を継続する等、それぞれキャリアは大きく異なっていた。これは、個々のキャリア開発に対する意識が高いだけでなく、看護師がそれぞれお互いのキャリアを認め、病院がサポートする体制が整っているからと考えた。また、勤務しながら修学を希望する際には奨学金制度等、経済面でのサポートも整備されていた。

【まとめ】

メイヨークリニックは、看護継続教育に関する制度や設備が整っていることに加え、NESの存在が教育の充実に大きく寄与していると考えた。また、看護師がそれぞれお互いのキャリアを認め合い、サポートし合うことが、結果として病院全体の看護の質の向上につながっていると考えた。

本発表は、木村看護教育振興財団の海外看護研修レポートに一部修正を加えたものであり、研修で得た情報の公表に関しては、木村看護教育振興財団の許可を得ている。

演題発表に関して、開示すべき利益相反関連事項はありません。